# 情報おきたま

置賜教育事務所指導課だより
令和5年12月 No.124


## 第2回 置賜地区いじめ・不登校防止連絡協議会

～いじめ・不登校未然防止につながる『キャリア・パスポート』の活用～

文部科学省　初等中等教育局　教育課程課　教科調査官　長田 徹 先生

第2回置賜地区いじめ・不登校防止連絡協議会（10月16日（月）実施）に、文部科学省初等中等教育局教育課程課 長田徹 教科調査官をお招きし、ご講義をいただきました。長田先生の講義を通して、現行の学習指導要領のもとでのキャリア教育の在り方について理解を深め、『キャリア・パスポート』の意義と活用について学ぶことができました。今回の研修のねらいは、子ども達の思いを支え、自分の可能性や良さに気づき“より良く生きるために『キャリア・パスポート』がある”ということを理解し、活用につなげることでした。講義では、『キャリア・パスポート』の活用実践を多数紹介いただきました。お話の中で、「小学校から高等学校まで大切に積み上げた『キャリア・パスポート』が大学生となった今の自分を支えている。」という事例を紹介いただきました。『キャリア・パスポート』に書き込まれた“過去の自分の頑張り”と“本人を励ます温かい担任の言葉”が、「未来の自分を支えていく。」という素敵なお話でした。このエピソードから「キャリア・パスポート」を子ども自らが記録し、学年、校種を越えて持ち上がるようにすることや、大人が対話的に関わることができるものにすることが、いかに大切かということを気づかせていただきました。他にも多数の事例を紹介いただきましたので、研修会に参加いただいた先生からお聞きいただき、先生方一人一人の実践にいかしていただければと思います。「キャリア・パスポート」について、その意義や具体的指導への理解を深め、より良い活用につなげるため、参考資料が出ております。下記 URL よりダウンロードし、ご利用ください。

実践事例 https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/tokkatsu_j-h_leafb_1.pdf

『中学校・高等学校特別活動指導資料 学校文化を創る特別活動』

### ＊ご参加いただいた先生方の感想から

演習を通して、ちょっとした言葉がけを見直すきっかけになりました。子どもが何を求めているのか、そこを見取る、寄り添うようにしていきたいです。『キャリア・パスポート』については実践しなければと頭でっかちになっていました。小・中・高までの活用例を教えていただき、意味や役割、子どもへの勇気づけ（効果）などを学ぶことができ、改めて使い方を考えていきたいと思いました。6年生担任として、子ども達の良さが中学校につながるようにしたいです。また、本音を語らせ、不安な気持ちを受け止め、中学校につないであげたいと思いました。（小学校教諭）

子ども達の生の声を資料としながらの長田先生の講義は大変胸が熱くなる思いがしました。子どものより良い成長に向けて、私たち教師が果たすべき役割を改めて考える良い機会となりました。『キャリア・パスポート』の活用次第で子ども達の自己肯定感を高めていけることを学びました。（小学校教諭）

『キャリア・パスポート』がどのような根拠で、どのように活用されているのか、理解が深まりました。正直書かせるだけでも一苦労の生徒がおり、どのように活用していけばよいのか、どれほど成果があるのか疑問に感じるところもありました。しかし、今回の講義をお聞きし、生徒一人ひとりの理解につながること、自分自身が自己の可能性に気付けること、そして、将来の学ぶ意義につながることがわかり、より一層やる気がわきました。（中学校教諭）

研修会報告

# 後期講師等研修会

9月13日（水）に後期講師等研修会を開催しました。全体での服務研修後、生徒指導部会、養護教諭部会に分かれ選択研修を行いました。養護教諭部会は、山形県教育局スポーツ保健課学校保健主査　庄司真希氏をお招きし「保健室経営～保健室から見える子どもたち～」について、ご講義をいただきました。生徒指導部会では、担当指導主事が「生徒指導提要改訂のポイント～学習指導と生徒指導の一体化～」について説明しました。「参加された先生方の声」と「申込み時にご記入いただいた『おきたまの教育』へのご意見や感想」を紹介します。

【参加された先生方の声】

・何事においても余裕をもって行動することが大事であると感じました。時間と気持ちに余裕があれば、回避できる問題がたくさんあると思いました。（服務研修）

・悩みを抱えた生徒を励ますだけではなく、ハードルを下げて声をかけたり、背中を押してあげたりすることで、生徒が踏ん張れ、困難を乗り越えられると思いました。（養護教諭部会）

・生徒指導で授業を変えるということ、その通りだと感じました。児童への接し方だったり、教師の児童への見方だったりが、授業へ影響してくるのではと思いました。私は、日々の学校生活で、常に笑顔で児童に接することを心がけています。まずは、児童を偏った見方で見ず、ありのままを受け止めることから始めていきます。（生徒指導部会）

【おきたまの教育について】

・②「失敗」から「失敗の乗り越え方」を学べる学校をつくることから、全て手助けしてあげるのではなく、子どもの考えや過程を大事することを学びました。

・私は、誰ひとり取り残さないためにも、保護者や地域の方との関わりを深めていることで、より子どもたちの良さを知ることができると思いました。

# 置賜　特別支援教育研修会

特別支援教育に係る教員の専門性を高めるため、9月28日（木）の「置賜特別支援教育研修会」では、桃山学院教育大学　人間教育学部教授の松久眞実氏より、オンラインにて、「多様性を認め合える学級づくり」についてご講義いただきました。たくさんの方に参加いただきありがとうございました。

***“どの子も、ともに学び合える喜びを感じられる学級づくりがしたい”***　その実現には、特性を持つ子に対しての個別の支援をしていくだけではなく、特別な支援が当たり前のものとなり、その理解が教室に広がっていくことが大事です。そうすることで、教室がインクルーシブ教育の大切な学びの場となり、大人も子どももみんなでつくる共生社会の実現につながっていくことと考えます。

＜参加された先生方より＞

落ち着いた教室を作ることが、個別支援を要する子への大きな支援となるということを全職員で共通理解を図ることができたことは大変ありがたかったです。

発達障害を含めた気になる児童への支援だけではなく、周りの児童へのアプローチも学ぶことが大変勉強になりました。

松久先生の「みんなの【のびしろ】をほめる」という言葉がとても心に残る一言でした。明日からの実践で、折に触れて思い出していきたい言葉になりました。

スタート！！

## 第4次山形県特別支援教育推進プラン

**令和5年度～（5か年）**

**＜基本目標＞**

**◎特別支援教育に係る教員の専門性を高め、一人一人の教育的ニーズを踏まえた指導・支援を推進する。**

**◎校内体制と関係機関との連携を強化し、切れ目ない支援の充実を図る。**

**◎インクルーシブ教育システムへ理解を進め、共生社会の形成と障がいのある子どもの自立と社会参加を目指す。**